

平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果

京都市立池田東小学校

4月21日に6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、分析した結果をまとめました。この調査は、国語・算数・理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査（児童質問紙調査）も実施しています。生活習慣と学力との関係などもふまえ、一部ではありますが、本校の子どもたちの総合的な状況をお伝えします。

総合結果（国語・算数・理科）

国語、算数についてはそれぞれにABのテストがあり、Aは主として知識、Bは主として活用についての問題になっています。本校は、国語AB、算数ABとも全国指数とほぼ同じ指数であり、概ね満足できる結果であったといえます。理科については、対全国指数を6ポイント上回る結果となり、こちらも満足できる結果であったといえます。3教科に共通していえることは、知識としての理解は概ねできているが、日常生活と結び付けて考えることができていることが課題です。また、児童質問紙調査の「書く問題に対しどのように解答したか」の質問に、約8割の児童が「最後まで解答を書こうと努力した」と答えていることから、学習に対する意欲の面についても積極的に問題に向かおうとする姿勢が伺えます。しかし、問題の後半になるにつれて正答率が低くなっており、問題を最後までやりきろうという焦りからか最後までしっかりと問題を読みきることができずに回答しているところも見られます。

国語科より

全体的に概ね理解はできています。国語Aでは、漢字の読みについては正答率が95%を超えていますが、書き取りについては約60～77%の正答率であり、特に送り仮名のあるものになると間違いが多く見られます。また、聞き方や書き方の工夫については理解できていますが、言葉を書き抜く問題や文章等から読み取る問題になると正答率が低くなっています。国語Bでは、文章の要旨やインタビューから内容をまとめることは比較的できていますが、絵や図をもとにして書くことについては正答率が低く、文章で表されていないものを文章化することに苦手意識が見られます。日常的に漢字の復習を行ったり、読書をしたりなどすることで、苦手意識を克服して欲しいと思います。また、授業でも文章を書く時間や場面を設定し、書く力も付けていきたいと思います。

算数科より

全体的に概ね理解はできています。特に計算問題や角度の問題については正答率が高く、その他の問題についても概ね理解はできており、基礎的な力が身に付いていると思います。しかし、直方体の展開図を見て答える問題については正答率が低く、展開図に対しての苦手意識が顕著に現れています。直方体の展開図については、復習をしっかりとする必要があると思われます。算数Bの結果からは、文章題として立式して答えを導き出すことはできており基本的な知識は身に付いています。しかし、図形の特徴や概数などの正答率は低く、具体的な数字では計算ができるが概数を用いて見積もるなど、応用するまではできておらず、算数と日常生活を結び付けて考えていくことが今後の課題であると思われます。

理科より

全体的によくできていますが、知識の問題と活用の問題とを比較すると、全体的に知識の問題については正答率が高く、活用の問題については正答率が低い傾向があります。特に、生物や植物の成長の問題についてはよく理解できており、実験や観察の方法、実験器具の使い方など、基本的な知識は身に付いています。しかし、電磁石の働きや星座の観察については正答率が低く、この部分については再度復習をする必要があると思われます。また、基本的な知識は身に付いているものの、方位や星・雲の動きなど、理科の知識としての理解だけでなく日常生活と結び付けて理解できるようにしていくことが今後の課題であると思われます。

児童質問紙調査より

Q 学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間読書を読みますか。

- 2時間以上
- 10分以上、30分より少ない
- その他
- 1時間以上、2時間より少ない
- 10分より少ない
- 無回答
- 30分以上、1時間より少ない
- 全くしない



Q 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館や地域の図書館にどれくらい行きますか。

- 週に4回以上
- 年に数回程度
- 週に1～3回程度
- ほとんど、または全く行かない
- 月に1～3回程度
- その他



Q 読書は好きですか。

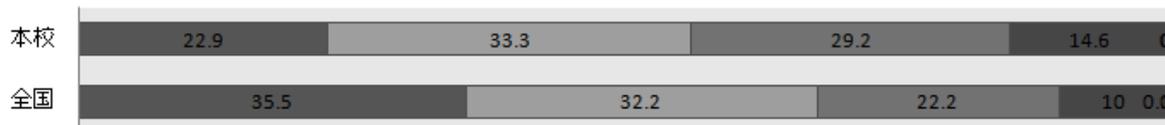
- 当てはまる
- 当てはまらない
- どちらかといえば、当てはまる
- その他
- どちらかといえば、当てはまらない
- 無回答



読書の質問について、読書は好きと回答した児童が約81%と全国平均より上回っているのに対し、実際読書をしている時間は10分以上1時間未満の児童が全体の半数以上をしめており、学校図書館や地域の図書館を利用している回数も少ないようです。これらの結果から、自分から読書をしているというよりは宿題や課題があつて読書をしている児童が多いように思われます。読書は知識や想像力など、様々な力を身に付けることができます。時間を有効的に使い、読書をする時間を上手に確保することも大事だと思います。

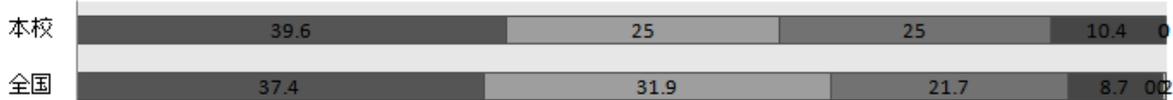
Q 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。

- 当てはまる
- 当てはまらない
- どちらかといえば、当てはまる
- その他
- どちらかといえば、当てはまらない
- 無回答



Q 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。

- 当てはまる
- 当てはまらない
- どちらかといえば、当てはまる
- その他
- どちらかといえば、当てはまらない
- 無回答



「授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」の質問について「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童は全体の半数ほどであり、学力調査の結果からもわかるように、知識としての理解は概ねできているが日常生活と結び付けて考えることができていないように思われます。授業の中でも日常生活と関連付けながら学習を進めていきたいと思っています。

保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばし、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てではなく、順位を競うものでもありません。今回の全国調査やジョイントプログラムの結果を見ると、子どもたちの学力は着実に伸びてきています。ご家庭での関わりやご支援のおかげだと思います。学力は個人の努力だけではなく、学校・家庭・地域で育てていくものだと考えています。今後ともご協力の程、よろしくお願いいたします。